



ACTIVITIES

第123回テレコム技術情報セミナー

■ と き : 令和7年11月21日(金) 15時 ~ 17時

■ と ころ : SCAT 2階会議室とオンラインのハイブリッド開催 合わせて約75名の方々にご参加いただきました。

講演1 「異分野交流が拓く知の創出 ― セマンティック通信研究を通じて ―」

北海道大学大学院情報科学研究科 メディアネットワーク専攻

准教授 須藤 克弥先生

概要

セマンティック通信は1953年に提唱されたものでしたが、工学的に実現することが難しいとされてきました。須藤先生は、ちょうど深層学習が流行り始めた2016年にカナダでの在外研究期間中に多くのAI研究者と議論され、その中で得られた「セマンティック通信を深層ニューラルネットワークで実現できるのでは」との気づきからご帰国後に研究を始められました。この経緯に基づき研究交流の意義や研究成果について紹介頂きました。

講演2 「錯覚が生み出す心と身体の変革」

東京大学 情報基盤センター

教授 雨宮 智浩先生

概要

五感とその相互作用に潜む錯覚を手掛かりに、身体所有感・運動・情動がいかに変容するかを事例とともに解説頂きました。

錯覚を“揺さぶり”として活用した実験や大学教育の応用成果、教育・訓練の可能性をご説明頂きました。

あわせて、学際的な研究交流こそ進展の鍵であることを共同研究の実例と共にご紹介頂きました。



ご講演内容については、後日セミナーレポートでご報告させていただきます。

交流懇談会の開催

■ とき：令和7年11月21日（金） 17時15分～19時

■ ところ：SCAT 2階会議室

研究助成利用者を対象とした交流懇談会を開催しました。

懇談会に先立ち開催された第123回テレコム技術情報セミナーで講師を務めて頂いた北海道大学 須藤先生、東京大学 雨宮先生、全国からお集まりいただいた先生方による交流イベントが和やかに行われました。賛助会員、電子情報通信学会事務局様にもゲスト参加頂きました。

今後もこうした助成者の交流を実施していきます。

なお、本イベントは、研究助成を利用頂いた3名の先生方（大阪大学 宮地先生、立命館大学 瀧口先生、東京大学 雨宮先生）へのインタビューの中で「研究助成者同士が交流できる交流の場が欲しい」とのご要望を頂き実現したものです。

先生方のインタビュー記事も掲載しておりますので是非ご参照ください。

